

# 2025年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2026年 2月4日

駒沢女子短期大学付属こまざわ幼稚園

## I. 本園の教育目標

- 遊び 遊びのなかで主体性を育てます  
心 命をいつくしむ心を育てます  
表現力 伝え合う分かち合う表現力を育てます

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ①幼保小連携カリキュラム「ひまわりプログラム」の実践と内容の充実を図り、その成果をまとめる。また地域に開かれた0歳児からの子育て支援施設をめざす。
- ②子どもの主体的な活動を支える教育課程の編み直しを行うとともに、子どもの実態に即した月案を作成し、保護者に子どもたちの進むべき方向性を明確に示すようにする。
- ③新たな幼稚教育へのアプローチとして、2か年計画の教材研究「デジタル音楽表現の可能性」についてその成果をまとめること。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況 (保護者アンケート回答率 90%)

評価項目	評価	取り組み状況
I 保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・2023年度に引き続き2024年度末も、全教員で保育実践の再評価を行い、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた、また園の特色を具現化する教育課程の編み直しを行い、カリキュラムマネジメントの必要性を再認識した。子どもの実態に即し、かつ子どもの主体的な活動を支える意図的・計画的な保育実践を目標に、長期指導計画並びに短期指導計画を作成し、保護者には新たに月案という形で伝えることにした。</li><li>・教職員は、さらに改善していくことに意欲をもっている。</li><li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均98.6%を示した。</li></ul>
II 保育の在り方・幼児への対応	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・日々の保育は子どもたち興味関心に即し、教職員は子どもたちの発意を具現化できるよう援助を行っている。</li><li>・小規模園の良さを生かし、すべての子どもたちの育ちを教職員が共有している。ありのままの姿を受け入れ、一人ひとりの子どもの良さを認めるよう努めている。</li><li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均99.6%を示し高い評価を得ることができた。</li></ul>
III 保育者としての資質能力	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの成長を自分の喜びとして感じ、また子どもと一緒に生活を創り出すことに喜びを感じることができる教職員集団であると言える。</li><li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均98.9%を示した。</li></ul>
IV 保護者への対応	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者に園の目指す教育、園児の実態を丁寧に伝え、園児の幸せのために手を携え、保護者の思いや願いに真摯に向きあっていきたい。</li><li>・子どもの幼稚園生活や、遊び(学び)がリアルに伝わるようにその方法を工夫していきたい。月案で示した進むべき目標がどこまで達成できたのか、評価や今後の改善案等も示していくと考えている。</li><li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均98.6%を示した。</li></ul>

V	地域とのかかわり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・向陽台小学校と向陽台保育園と連携を図り、「ひまわりプログラム」架け橋プログラムを2022年度に策定、実践は3年目を迎えた。子どもに就学に対する期待感と安心感を与え、保育者と小学校教諭が互いに学び合う取り組みを行っている。今年度は、3か年の実践の成果を振り返り、「メタ認知を促す幼児期・児童期における系統的指導－教師の言葉がけによるメタ認知知識の獲得－」について向陽台小学校校長と本園園長の共著で論文にまとめた。</li> <li>・地域に開かれた園を目指し、0歳児からの子育て支援「ひだまり」を開設して2年目を迎えた。年間9回の開催内容は「おしゃべりサロン」の他、看護師による「ベビーマッサージ」本学教員による「子どもの心理学」・「子どもの家庭看護」・「子どもの食と栄養」について学ぶ機会を盛り込み、地域の子育て支援に取り組んでいる。2025年度は全9回、無料とした。</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均100%を示しこれらの取り組みを認めていただける結果となった。</li> </ul>
VI	研修	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚教育におけるデジタル音楽表現の可能性など、新しい教材や子どもの興味関心に即した教材について、2か年にわたり大学教員の指導を受けた。実践報告として「幼稚園教育におけるデジタル音楽表現の可能性－DAWソフトを用いたサウンド制作の実践と保育現場での活用の検討－」の成果を昭和女子大学名誉教授と本園園長の共著でまとめた。</li> <li>・本評価項目に対する保護者の肯定的評価は、全項目平均100%を示し、保護者からも高い評価を得た。</li> </ul>

(評価 A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の重点「地域社会とのかかわり」については、地域に根差し、地域に開かれた園であることに努め、0歳からの子育て支援を継続した。幼保小連携カリキュラム「ひまわりプログラム」の実践と内容の充実に関しては、幼稚園教諭が向陽台小学校1年生の体育の授業の一部をチームティーチングの形式で担当する機会をいただくなど、さらに発展させることができた。小学校教諭が幼稚園児を指導するケースが時々見られるが、幼稚園教諭が小学校で指導するケースは全国でもめずらしい。</li> <li>・同じく本年度の重点的目標である「保育の計画性」については、全教職員で1年間の保育を評価し、教育課程の編み直しを行った。今後も年度ごとにカリキュラムマネジメントを行い、子どもの実態に即した教育課程になるよう修正を行っていく。</li> <li>・同じく本年度の重点目標である「研修」については、継続して「デジタル音楽表現」を学び、2か年の成果で教員が保育で使えるようになった。</li> <li>・上記の実績に加え、自己評価結果及び保護者評価結果、学校関係者評価委員会の意見を精査し、今年度の総合的な評価として、十分に達成されているものと考える。</li> </ul>

(評価 A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
I	保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントは、形骸化することなく、教育目標の実現に向け、子どもたちの実態に即しアプローチの方法を検討し、子どもの主体性を育していく。</li> <li>・「保育環境が整っていること」すなわち安全で清潔感のあることが、子どもたちの落ち着いた生活を送ることや、他者や物を大切にする心を育てるにつながることを自覚しなければならない。</li> </ul>

2	保護者への対応	・幼稚園の教育活動のねらいと方法について丁寧に伝え、子どもたちの遊び（遊び）がどこまで、達成できたか保護者が実感できるよう伝え方の工夫が求められる。
---	---------	--

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・学校関係者評価委員会として、保育参観、園長及び保育者に対するインタビュー、教育課程・指導計画等の確認、保護者評価及び自己評価のデータを精査した結果、2025年度の本園の運営並びに教育活動が、本園の教育目標に適切かつ創造的に迫るものであったことが認められました。
- ・本年度の教育課程については、保育者が主体的に自らの保育を評価し、改善に努めました。また園児のメタ認知を促す保育者の言葉掛けにより、「園児の主体性を尊重する創造的な教育実践」がなされました。
- ・保育実践においては、すべての保育者が園児一人ひとりの思いを尊重し、あたたかく接しています。
- ・子どもの劇表現に応えることができる音楽編集技術の習得のため、大学教員を招聘し「デジタル音楽表現」について、保育者が2年間継続して研鑽を図ったことは、新たな幼児教育への意欲的な挑戦として評価できます。
- ・園長自身の小学校教諭としての経験と知見を踏まえた公立小学校との連携は、園児にとって就学への期待を育むとともに、保育者にとっても園児の発達を見通した幼児教育の実践の上で貴重な学びとなったものと考えます。